普及活動情勢報告（平成２７年３月分）

中央西農業振興センター　高知農業改良普及所

鏡村直販店組合定期総会で取り組みの報告と提案をしました！

試作乾燥野菜の展示の様子

２月２０日、５９名の組合員が出席して総会が開催されました。平成２６年は夏の長雨や台風の被害がありましたが、２年連続で販売額が前年を上回り、目標額を達成しました。

普及所からは、夏場の小ネギの栽培実証結果や新しい乾燥野菜の試作・評価結果について報告し、商品バリエーションを少しでも増やしてもらうよう提案しました。乾燥野菜については、乾燥機や試作品の展示も行い、組合員に興味を持って見てもらうことができました。

今後も、チーム会で協議しながら取り組みを進めていきます。

中山間の有望品目、四方竹の収量・品質の向上を目指して！

３月２日に七ツ渕筍生産組合、３月６日に土佐山四方竹生産組合を対象として、四方竹の栽培や加工に関する研修会を行いました。

普及所からは①根の生育については春先の伸長が大きいこと、②排水の悪い圃場で生育が不良であったこと、③加工した四方竹は低温の管理が必要であること等を、今年度調査した結果をもとに説明しました。

結果について、生産者の関心も高く、施肥や排水対策、加工手順などについても意見交換が行われました。

普及所では、引き続き関係機関と連携しながら、四方竹の生産・品質の向上を支援していきます。

実物のショウガにビックリ!! ショウガ料理ににっこり!! ～小学生がショウガ栽培のお勉強～

３月２日に、高知市立第六小学校で４年生２２人を対象に、高知県学校給食会と連携し、ショウガの出前授業を行いました。

普及所から高知市で生産される農産物の概要を、またＪＡ高知市㈱生姜生産組合生産者からショウガの栽培方法や育ち方を実物や写真、動画、またクイズ等を交えながら説明しました。１株丸ごとのショウガを実際に見て手に持った児童達はその大きさに驚いていました。ＪＡ高知市で販売しているショウガジャムや児童達が実際にショウガをすり下ろして作ったハチミツ入りショウガドリンクの試食体験も行いました。辛さが特徴のショウガですが、意外に「美味しい」との声が多く聴かれました。授業の後、全員が学校給食会よりジュニア博士認定証を授与されました。

普及所では、これからも本県農業への理解を深めてもらうための普及啓発に継続して取り組んでいきます。

普及推進協議会を開催し、普及所の活動にご意見をいただきました！

３月４日、今年度２回目の普及推進協議会を開催し、総合課題【キュウリの産地維持と生産安定】【地域特性に応じた集落営農の育成】や個別課題の活動実績について報告をしました。委員の農家や関係機関からは「担い手育成センターから直接産地の受け入れ農家でなく、県でアパート方式を導入してはどうか」や「炭酸ガス施用は実証試験ほをもっと増やして欲しい」、「ユズや四方竹をベースに１年間儲かるようにしたい」などの意見がでました。また、来年度の普及計画の概要についても説明し協議しました。

今後も、意見を参考に関係機関と連携して取り組んで行きます。

直販クレーム対応の向上に向けてガイドラインづくり

クレーム対応の検討

鏡村直販店組合では、直販所のレベルアップのため、クレーム対応向上を課題とし高知県産業振興アドバイザー制度を活用した研修会を２回開催しました。

今回は、３月１０日に職員９名全員が出席し、これまでの研修会で学んだことをガイドラインとしてまとめていくため、事前に実施した異物混入対応の職員アンケートをもとに、鏡村直販店組合としての対応の方向性を確認しました。

普及所では、アンケートの作成、とりまとめ等を行っており、これからも引き続き、事例ごとのガイドライン作成の支援を行っていきます。

環境制御技術及びＩＰＭ普及のために！キュウリ品目別現地検討会

３月１６日、高知市春野町の環境制御装置導入ハウスと天敵利用ハウスにおいて、各産地の農協職員や春野地区のキュウリ農家、県関係職員約５０名でキュウリの現地検討会を開催し、普及所は内容の説明を行いました。

環境測定装置やCO_2施用装置を導入している実証農家は、果実の肥大速度向上による収量増加を実感していました。一方、天敵利用ではスワルスキーカブリダニとタバコカスミカメの併用導入事例が増えており、利用農家は防除効果に手応えを感じている様子でした。

今後も普及所は農協と協力しながら、新技術の普及に取り組んでいきます。